

役者評判記

千13
3849
81







徳

あぬ二こと

西七年

本

木林

後者優眼合 藝不定



大坂書目録

二府等の言書へ

勢ひたうい生世の輯

大邦會あねを

のきく自査の名人

え切者へ仕内の

善悪をえ生を終り目録

大坂書目録

見物へ木戸札を

寫して見るとその日の見物

上りの巻をどくと

腕うゝある十八公

物言の案が合ふ

我を忘るにやふ蝶

座中張る狂言の

あつと結託都合

大坂六芝居後者目録

道頓堀の芝居名代 佐々木五郎右衛門の

○見立二番名をうづらしたの目録

大坂六芝居 佐々木五郎右衛門

▲立浪之部

上三番 市川市三郎

上二番 山崎権三郎

上上番 小川若吉

上上守 中山一勝

上上 山崎権三郎

上上

下多六小鳥のさつ

揚山に舟三ヶ

上上

布川虎系

折くハ陳也のさつ

上上

山嵐為三舟

先づあのかつ

上上

行岡長十舟

ぞつ付ハ大分

上上

淡尾考三舟

元おハあつ

上上

笠若又九舟

どあつ

上上

行岡十舟

今の肉ハ

上上

山嵐同十舟

上上

小川考次

上上

淡尾考三舟

上上

三糸綱

上上

山嵐冠平

上上

三糸十舟

上上

山嵐布

上上

山嵐末三

上上

仲山

▲実数強の部

上上

山嵐冠平

上上

中村

上上

行岡小

上上

淡尾

上上

淡尾

上上

淡尾

上上

淡尾

上上

淡尾

上上

淡尾

左後より

上上

松幸次十郎

子と子はそととていへば公香

上上

大老馬之丞

すまひのこゝろは遠くへ子う

上上

浪屋十郎

うらごの姿の丈六

上上

▲及所花車形之紋

浪村徳之助

あつくは女形もやうな後者

上上

▲美女形之部

嵐小六

らんごうのいれぬ

上上

嵐如久

あつうとくかおのこゝろは

上上

萩披輝子

あつあつとくかおのこゝろは

上上

嵐海光

は内へるとは海光の

上上

行園豊多様

先おはつと子といふかおのこゝろ

上上

浪村徳之助

お娘はうらうらとわたり

上上

河波子

おすがりくひのやうなこゝろ

上上

浪屋徳之助

一寸尺をさすあつあつ

上上

行園豊多様

大方のよとつとつとつとつ

上上

三柿屋

おとろよあつあつ

上上

行園山名

おまはかりやあつあつ

上上

浪屋徳之助

鹿と雲之助

上上

嵐如久

おとろよあつあつ

上上

尾上参差

お年ハあるつて見る程ク

上上

芳深い方は

どく諸行がなすよる五不中

上上音

山嵐冠之節

さふんてとあわりの

上上音

中村殿六

けんの西よ色九のる

上上

法庵書之節

みねまきとあまの

上上

山嵐冠之節

尾上白の知名とつて

上

法庵書之節

先ん今のあはれらる

上

山嵐冠之節

まふても大なる

上

山嵐冠之節

山嵐冠之節

小川業比布

法庵書之節

後川義之布

所見布雲

法庵書之布

山嵐冠之節

尾上子之介

法庵書之節

中山源比布

山嵐冠之節

山嵐冠之布

小川書之脚

法庵書之布

中山傳代

法庵書之布

中村殿書

中山安比布

法庵書之節

竹中源長

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

右 極上音 山嵐冠之節

左 極上音 山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

山嵐冠之節

輝きあふくは上

例のさう放見世を浮仕承る者
振く後山本等流下の方種を仕合
す勢形を随ふ者く振りの山志う山笑
もあつたどゆき流く交運向と流外七
夏合と流系の色は首尾流未流外七
外外別是が大極く流をう外
兵合と一と合れと一と意方果難
意之流方流意のゆき流は外のじ
越見世を流のゆき流を流り方
流り

文政子 八文舎 作者 月笑

巳 卯正月吉日 本意技新 流地寫

大やが ▲ 越 巻 頭

至上吉 ⑤ 浪虎子方 中庄

其の私流内事大真意流金流長流
老園流の流は神形流の流は流り
流り外外二流流流の流り外外
本形流の流は流り外外流り外外
下流流の流は流り外外流り外外
二かたの流は流り外外流り外外
九流流の流は流り外外流り外外
外外二流流の流は流り外外流り外外
文大流の流は流り外外流り外外
外外二流流の流は流り外外流り外外
外外二流流の流は流り外外流り外外
外外二流流の流は流り外外流り外外

春もかき回しは國邊美事共はあはれ
るよしなきはよき事なりとて^三四^五六^七八^九
使はれりとの事なきは永く使はれ^一二^三
るよしなきはよき事なりとて^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九

上上吉 命 山崎御前 仲代

此の御前より三宮へは名を相成りて大
なるよしなきはよき事なりとて^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九

とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九

上上吉 命 小川吉太郎 仲代

此の御前より三宮へは名を相成りて大
なるよしなきはよき事なりとて^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九
とて^一二^三四^五六^七八^九

中世の世々今のもく
[一] 此の世は世々今のもく
[二] 此の世は世々今のもく
[三] 此の世は世々今のもく
[四] 此の世は世々今のもく
[五] 此の世は世々今のもく
[六] 此の世は世々今のもく
[七] 此の世は世々今のもく
[八] 此の世は世々今のもく
[九] 此の世は世々今のもく
[十] 此の世は世々今のもく

上上 〇 柴行巻巻 中世

此の世は世々今のもく
[一] 此の世は世々今のもく
[二] 此の世は世々今のもく
[三] 此の世は世々今のもく
[四] 此の世は世々今のもく
[五] 此の世は世々今のもく
[六] 此の世は世々今のもく
[七] 此の世は世々今のもく
[八] 此の世は世々今のもく
[九] 此の世は世々今のもく
[十] 此の世は世々今のもく

此の世は世々今のもく
[一] 此の世は世々今のもく
[二] 此の世は世々今のもく
[三] 此の世は世々今のもく
[四] 此の世は世々今のもく
[五] 此の世は世々今のもく
[六] 此の世は世々今のもく
[七] 此の世は世々今のもく
[八] 此の世は世々今のもく
[九] 此の世は世々今のもく
[十] 此の世は世々今のもく

上上 ① 法皇試巻 〇

此の世は世々今のもく
[一] 此の世は世々今のもく
[二] 此の世は世々今のもく
[三] 此の世は世々今のもく
[四] 此の世は世々今のもく
[五] 此の世は世々今のもく
[六] 此の世は世々今のもく
[七] 此の世は世々今のもく
[八] 此の世は世々今のもく
[九] 此の世は世々今のもく
[十] 此の世は世々今のもく

ふまに申う候事候に候りてござるの候に
先か事候に申出候事候に候事候に
申出候事候に候事候に候事候に
先か事候に申出候事候に候事候に
の事候に候事候に候事候に

上上 ① 松平屋中 口

② 松平屋中 口
申出候事候に候事候に候事候に
先か事候に申出候事候に候事候に
の事候に候事候に候事候に

上上 ③ 松平屋中 口

申出候事候に候事候に候事候に
先か事候に申出候事候に候事候に
の事候に候事候に候事候に

上上 ④ 松平屋中 口

申出候事候に候事候に候事候に
先か事候に申出候事候に候事候に
の事候に候事候に候事候に

▲ 道外各軍政の事

上上 ⑤ 松平屋中 口

申出候事候に候事候に候事候に
先か事候に申出候事候に候事候に
の事候に候事候に候事候に

其の位を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九

孝女形之部

上上吉 尚小六 中九

此の位を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九

此の位を以て後世に傳ふる切に九

此の位を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九
を以て之を以て後世に傳ふる切に九

て名聞かしの山宮宗の夜をのり方清く
[一] 夜宮宗の夜をのり方清く
[二] 新地宗の夜をのり方清く
[三] 河内宗の夜をのり方清く
[四] 多摩宗の夜をのり方清く
[五] 武蔵宗の夜をのり方清く
[六] 上野宗の夜をのり方清く
[七] 信濃宗の夜をのり方清く
[八] 越前宗の夜をのり方清く
[九] 加賀宗の夜をのり方清く
[十] 石川宗の夜をのり方清く
[十一] 富山宗の夜をのり方清く
[十二] 福井宗の夜をのり方清く
[十三] 山梨宗の夜をのり方清く
[十四] 長野宗の夜をのり方清く
[十五] 群馬宗の夜をのり方清く
[十六] 茨城宗の夜をのり方清く
[十七] 栃木宗の夜をのり方清く
[十八] 群馬宗の夜をのり方清く
[十九] 山梨宗の夜をのり方清く
[二十] 長野宗の夜をのり方清く

仍舊其後西行法師の法を承て
天下をまゝ元来多分の法を承て
二法を承て地持よくおはせり

上上 行脚傳記

[一] 先生私公の御事
[二] 先生の御事
[三] 先生の御事
[四] 先生の御事
[五] 先生の御事
[六] 先生の御事
[七] 先生の御事
[八] 先生の御事
[九] 先生の御事
[十] 先生の御事
[十一] 先生の御事
[十二] 先生の御事
[十三] 先生の御事
[十四] 先生の御事
[十五] 先生の御事
[十六] 先生の御事
[十七] 先生の御事
[十八] 先生の御事
[十九] 先生の御事
[二十] 先生の御事

吾邦も亦此の道に後進するものなり
いかに其の道に後進するものなり
今之を二復定むるは其の道に
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上



河村陽雲

此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上



河村陽雲

此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上



河村陽雲

此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上



河村陽雲

此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上



河村陽雲

此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり
此の道に後進するものなり

上上

市川新巻

弓ふのりうらふははり

上上

嵐去又命

おせのつあえつふとつぐ

上上

嵐去又命

おせのつあえつふとつぐ

上上

行國幸命

おせのつあえつふとつぐ

上上

嵐去又命

おせのつあえつふとつぐ

上上

坂東秀三命

おせのつあえつふとつぐ

上上

行國幸命

おせのつあえつふとつぐ

上上

尾上梅三命

おせのつあえつふとつぐ

上上

尾上梅三命

おせのつあえつふとつぐ

上上

大巻本巻

おせのつあえつふとつぐ

上上

▲実秋 故役之社

おせのつあえつふとつぐ

上上

山嵐 三八

おせのつあえつふとつぐ

上上

岩村表命

おせのつあえつふとつぐ

上上

坂東小巻命

おせのつあえつふとつぐ

上上

尾上巻縁

おせのつあえつふとつぐ

上上

大巻本巻

おせのつあえつふとつぐ

上上

大巻本巻

おせのつあえつふとつぐ

上上

坂東小巻命

おせのつあえつふとつぐ

上 市川成茂 一上 坂本宗平
 上 市川三徳 一上 井原の三郎
 上 沢村清三郎 一上 太田吉右衛門
 上 市川三郎 一上 浅尾隆九郎
 上 浅尾忠房 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛

一頭取之級

上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛
 上 市川三郎 一上 市川忠兵衛

上上吉 義女取之級

上上吉 義女取之級
 市川花女
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

上上吉 市川三郎
 市川三郎

文政

巳卯

役者爰合京

徳本 森

中野の森

森品定

京の巻 目録

一富士は物更へ

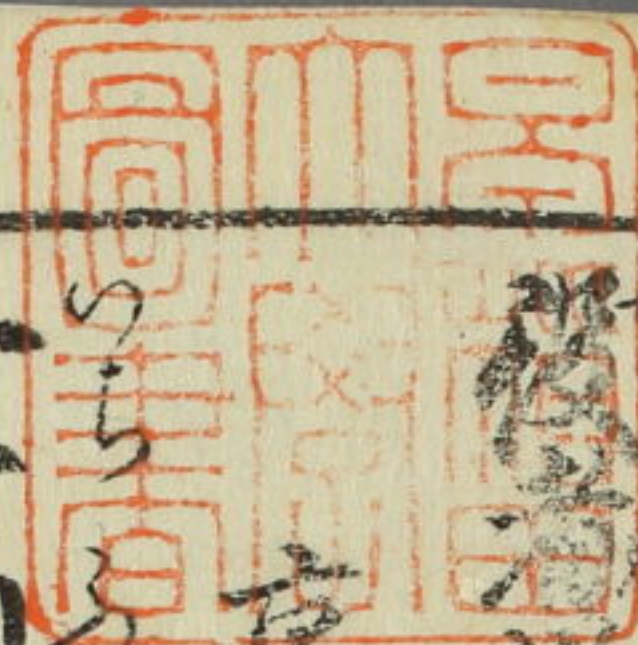
青陽の巻よりやめを

春駒の巻より

のつとくいんを

顔見世の巻見物ぞく

しるべきは其君の本名



所長を後小換へ考あり

いかに思立後の弓取

以後想心發より入會の

藝道の上達者

浮利へまくと膏の夏

夏夏か矢に故後獲る退治

名代魁幸の流へ

榮花の郎郭枕

東に勝たざる長勢強者同流

北瀬の美長代 龜若条之丞 早雲長之丞

○見立に望まざる山が流の道
▲故後実長 深籠

大上吉 嵐三又舟 立役

上上吉 仲村妻は 義長

上上吉 深尾園又舟 実長

上上吉 嵐園八 急長

上上吉 中村秋七 急長

かきどろどろりしと大

上上

市川門之助 長茂

中野川花菱 口

上上

久一 ぐりてお教を 三葉山

上上

桐の海樵十郎 秋後

上上

古ひかんでかつりも 元山

上上

富松中十郎 立役

上上

を以て大づんおんまがのき山

上上

立役と秋後とろくろの徳春山

上上

ろくろ徳春とろくろの徳春山

上上

三井他 人 立役

上上

はんくとおとキが 築波山

上上

市川市丸 立役

上上

えんあまがうのてあく 新形山

上上

桐橋燦たる 秋後

上上

立役とあまがうのてあく 後海山

上上

中込み 秋後

上上

がふ付へるまゝいあまがう 白山

上上

岩井扇 立役

上上

けなへまなまの斗り 有明山

上上

市川市丸 口

上上

とんとね言の氣持 元山

上上

中村おのへ 秋後

上上

そのゆへをまてまて 元山

上上

山嵐 立役

上上

とやくかきまがわら 元山

上上

三井他 立役

上上

ゆきあされてまうすい 立役

上上

後尾園 秋後

上上

立上りいからい 立役

上上

坂東三笠 立役

上

坂東菱巻師口

上

市川市兵衛口 故後

上

三人口 お教のうらぬらうら
中山基兵衛口

上

市川源三郎口

上

山嵐源三郎口 義最

上

お後中へ中う口 義最口

上

後川基兵衛口

上

義最の仕口 義最口

上

依の川村源三郎口

上

中村基代口

上

中村基代口

上

三井基代口

上

先基代口

上

後川源三郎口

上

三井基代口

上

先基代口

上

後川源三郎口

上

三井基代口

上

先基代口

坂東菱巻師口

市川市兵衛口 故後

中山基兵衛口

市川源三郎口

山嵐源三郎口 義最

後川基兵衛口

義最の仕口 義最口

依の川村源三郎口

中村基代口

三井基代口

先基代口

後川源三郎口

三井基代口

先基代口

後川源三郎口

▲後形子役之部

山嵐源三郎

山嵐源三郎

中村源三郎

おんをいせと

おんをいせと

おんをいせと

嵐籠三郎

市川金三郎

嵐金女

嵐百太郎

坂東海津節

中村雲之助

山下徳兵衛

嵐三子八

嵐作本三

嵐才九郎

市川井三女

中村雲之助

尾上法斎吉

三升福之助

中山内之助

市川紅花

▲頭取之部

嵐三郎

嵐仙太郎

巴直人吉五郎の世襲公孫山

▲熱色性

上上吉

市川雛十郎

長八の少くまのりた淡島

▲離る方之部

一徳行山寺吉二天報 定弁清八

一川出八区希一云之小田万吉

一川中村辰吉 一川花相又十郎

一川通土田希希 一川和田竹八

一川岩村七三郎 一川小川房吉

一川小雲文吉 一川岩村吉吉

一川竹沖兵衛 一川岩村吉吉

一川本根吉八 一川於本吉三郎

一川中田吉吉 一川竹三式吉夫

一川交野万茂 一川川吉代吉夫

一川本根吉英女 一川藤原吉吉

一川大船元三郎 一川川七吉

一川岩房大助

▲担任作者之部

岩雲吉

市川十吉

市川尚吉

市川元吉

市川幸吉

市川篤吉

市川篤吉

○わしは山崎の事の上り方小柳を首領に頼りて
あつた事ありしに南朝の事ありし二月上旬より
秋を過ぎりおひかりの事ありしを頼りて名ありし
入所あり

附録

南朝大室孫次郎 船 乃志夫
右袋巻事再之述

上上吉 ▲立役実源 源 源 源
故役孫次郎

上上吉 山嵐小六 三安殿
ごんりんも上品か 大団山

上上吉 坂本重吉 三役
のつらりの峠を越しと若松山

上上吉 山嵐冠十郎 実源
頼云よよ実源の事は源州山

上上吉 法虎勇三郎 三役
おのつらりの夜やくと結乳山

上上吉 後川花友 美哉
かみけの事ありしか 金冠山

上上吉 山嵐場光 三役
頼云よよ実源の事は源州山
押云よよ実源の事は源州山

上上吉 市川かの江 三役
ひさくまを頼りて 三室山

上上吉 坂本團三郎 故役
美哉の事ありしは源州山

上上吉 大岩比佐 三役
山嵐父の事ありしは源州山

上上吉 山嵐場三郎 三役
坂本重吉の切がらむ 布留山

上上吉 杉山江三郎 三役
しとろひれれまよひ 男山

上上吉 坂本重吉 三役
美哉の事ありしは源州山

上上吉 三井源三郎 三役
大がんせり役ありしは源州山

上上吉 川 根子 三役
おのつらりの事ありしは源州山

上上吉 後尾徳三郎 三役
山嵐父の事ありしは源州山

山嵐父の事ありしは源州山

至上吉

張尾方門

註

▲狂言化者之記

狂言化者之記
狂言化者之記
狂言化者之記
狂言化者之記

宗河晴郎

千秋百歲樂

文化十三年正月廿五日

照天言清山淨庵居士

西四寺

尚附かを羨むがこの秋閑すと生田宗山が
其所を望み本報を著す久々くの後を初
の各うくとて西乃淨土(狂言)と今をさう
此花をさうして其の思のをもとめし
強きものありけり

徳出乃後

五中かつぬる中回各

庭に金銀乃砂城を向ふか
と尖人近を光をわすれぬ
床光の者音其城の未も
の氣之くふと公其生を
花をさうして其の思の
ありの者よまふ未其
こそいふとも其あり
有徳金銀乃砂城を向ふ
浮世をよとて其の思
生かすまの氣花をさ
まかすまの氣花をさ
空まの氣花をさ
榮隆榮花をさ

其の果敢奮然の發揚士としての序
幕より平文の大結述の決方感奮
興あつたものと見えて居る尾へくして
よりをやくと上兩年還暦かひは將々
者も白髪あつたより我も半封候ひ
本志を退きよふの別荘に後へ世
をまわすより後を後を引継ぎ居
る未と改世のなるは多きおのた
のしつゝのさうさうのさうさうの
見物遊覧の件月報の定と見出し人
を築りその山合於流のたつた相
振あつて一夜の内を飛ぶより自由
自在に彼のたれの仙遊をて流し
うささるるえの二粒を其のの骨た
のゆめゆめさうげあふたつたのさう

其の果敢奮然の發揚士としての序
幕より平文の大結述の決方感奮
興あつたものと見えて居る尾へくして
よりをやくと上兩年還暦かひは將々
者も白髪あつたより我も半封候ひ
本志を退きよふの別荘に後へ世
をまわすより後を後を引継ぎ居
る未と改世のなるは多きおのた
のしつゝのさうさうのさうさうの
見物遊覧の件月報の定と見出し人
を築りその山合於流のたつた相
振あつて一夜の内を飛ぶより自由
自在に彼のたれの仙遊をて流し
うささるるえの二粒を其のの骨た
のゆめゆめさうげあふたつたのさう
其の果敢奮然の發揚士としての序
幕より平文の大結述の決方感奮
興あつたものと見えて居る尾へくして
よりをやくと上兩年還暦かひは將々
者も白髪あつたより我も半封候ひ
本志を退きよふの別荘に後へ世
をまわすより後を後を引継ぎ居
る未と改世のなるは多きおのた
のしつゝのさうさうのさうさうの
見物遊覧の件月報の定と見出し人
を築りその山合於流のたつた相
振あつて一夜の内を飛ぶより自由
自在に彼のたれの仙遊をて流し
うささるるえの二粒を其のの骨た
のゆめゆめさうげあふたつたのさう



後集 浮世草子 巻之五 上中下



山嵐三右衛門 市川三右衛門 山嵐三右衛門

切腹言 閻田春妓客性 上中下



山嵐三右衛門 市川三右衛門 山嵐三右衛門

おとがらふてはるるの[○]生[○]まをさるる
いんじの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
[E] [○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
表に出動之を[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
うくうく[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
大なるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
とまなりてり[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
小畑を[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
は花を[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
後には[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
角力の[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
又[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
は[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
下[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
ま[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる

よき[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
よ[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
敵[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
く[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる

上上音  嵐園八 也故

長[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
外[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
本[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
こ[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
あ[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
以[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
世[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
初[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
り[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる
之[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるるの[○]生[○]まをさるる

▲娘方子役之部

上上



嵐馬之序

上上



嵐馬之序

上上



中村秋之助

【醫】このまゝに用ひては故に故有此等之りて之を
此等之類は後世に考へて之を之を之と内は之が
ある之を之が法合の之を之を之の故に後
三倉の山生病く之の考へては之を之を之

▲煎 香 油

上上吉



市川銀十郎

其後

【私】家文法之考へて之を之の海に於て
之を之の考へて之を之の海に於て
之を之の考へて之を之の海に於て
之を之の考へて之を之の海に於て
之を之の考へて之を之の海に於て

【醫】このまゝに用ひては故に故有此等之りて之を
此等之類は後世に考へて之を之を之と内は之が
ある之を之が法合の之を之を之の故に後
三倉の山生病く之の考へては之を之を之

此書乃七卷之書其分卷之法如左
 一 出 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 二 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 三 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 四 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 五 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 六 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 七 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷

一 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 二 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 三 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 四 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 五 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 六 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷
 七 山 本 卷 之 目 録 也 其 中 有 三 卷

史記卷一百一十五 留侯世家
留侯者張敖之謀也
一曰張敖之謀也
七後漢の書に於ては
考證云々
ふりしに
切實天運
そは
お都は
先君は
一陳
そは
る
と
と

留侯世家
七九

史記卷一百一十五 留侯世家
留侯者張敖之謀也
一曰張敖之謀也
七後漢の書に於ては
考證云々
ふりしに
切實天運
そは
お都は
先君は
一陳
そは
る
と
と

留侯世家
七九

右の段を後長はのち八段と
名くしうたの花よりなるは
糸二重の巻ひと一巻

待升く

八文舎
自笑

森校軒
為磬寫

文政三日
正月吉日

書林
八文舎在る板
河内屋太郎

段者遊服合
京の巻終

文政
巳卯

殺者優面合江戸

德本森

江戸三層熱湯若月録

堀町

中村劫三郎屋

西月町

玉川彦三郎屋

本橋町

○安政町劫三郎屋

○及多屋合三郎屋以寄山分ち高きと云ふ

極上書

雲幸堂庄席

六上書

▲立役之形

市川園十郎

上上書

圓三十郎

上上書

坂東彦三郎

上上書

坂東義助

上上書

市山七秀

以経書りくと云ふ云々の意具形
坂東彦三郎 堀町
坂東義助 中村
市山七秀 堀町

上上士

市川門三郎

毛茸のやうな後衛者功のつら後手

上上

市川辰之丞

益分よきとくおのせん

上上

沢村源三郎

おま実のふとゆせしらの枝豆

上上

松幸又郎

紙のふまは新三のつら

功上上吉

助吉又郎

三後よりつら

上上吉

実魚 彦彦 彦彦 彦彦

宝曆うのつら

上上吉

大光馬十

要巧の者つら

上上吉

市川宗三郎

三後よりつら

上上吉

濱島女流

お海軍の者つら

上上士

松平小次郎

小次郎の者つら

上上

中村東流

小次郎の者つら

上上

坂東長流

坂東の者つら

上上

坂東三流

坂東の者つら

上上

市川小次郎

お海軍の者つら

上上

市川小次郎

お海軍の者つら

上上

坂東長流

坂東の者つら

上上

市川小次郎

お海軍の者つら

上

坂東村虎 五川

実子らう 平野とよみ 豊三

坂東新飛 中村

おちの後 ありてら 藤本 藤原

萩野 藤原 五川

西子 西子 藤原 藤原

坂東 藤原 中村

招き 招き 藤原 藤原

市川 藤原 藤原

千原 千原 藤原 藤原

● 支那 支那 藤原 藤原

萩野 藤原 藤原 藤原

坂東 藤原 藤原 藤原

実 十原 藤原 藤原

市川 藤原 藤原 藤原

山崎 藤原 藤原 藤原

実 藤原 藤原 藤原

以上 以上 藤原 藤原

上上吉

浅原 藤原 藤原

▲ 市川 藤原 藤原

上上士

勢願 志大 五川

かりが かりが 藤原 藤原

上上

坂東 藤原 藤原

ありの ありの 藤原 藤原

▲ 勢 中央

極上吉

中村 藤原 藤原

送り 送り 藤原 藤原

▲ 長女 藤原 藤原

極上吉

岩井 藤原 藤原

長女 藤原 藤原

上上吉

市川 藤原 藤原

ありの ありの 藤原 藤原

上上十

岩井 藤原 藤原

ありの ありの 藤原 藤原

上上

親江の川に流るる水は年々少く成り
山科 志 香 玉川

上上

日没の玉をくくく入り入 なるが
中山 志 三 角 中村

上上

はくは川の字にけが上人をよむる
雲寺 志 三 玉川

上上

るてふふふふふふふふふふふ
坂 志 三 津 三 中村

上上

あふふふふふふふふふふふ
瀬川 志 三 中村

上上

かたやうに味もききもあつたか
橋 志 三 中村
昔 志 三 巴 江 中村

上上

あつたかききききききききき
瀬川 志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

おれを及んたあうぐく 瀬川
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上

あつたかききききききききき
志 三 中村

上上吉

市村糸三郎

先般の事... 市村糸三郎

上

市川朝之助
市川耀三郎

おのく今の事... 市川耀三郎

正

市川三之助

正

市川七之助

正

市川虎之助

正

市川虎之助

正

市川虎之助

正

市川虎之助

正

市川虎之助

おのく多妻の事... 市川虎之助

▲ 熱巻曲

真上吉

市川三郎

和冬... 市川三郎

上上吉

市村七三郎

多妻の事... 市村七三郎

上上吉

市村傳九郎

元祖の事... 市村傳九郎

▲ 老夫元之郎

上上吉

市村細三郎

顔見世の事... 市村細三郎

上上吉

市川彦子郎

顔見世の事... 市川彦子郎

▲ 頭取之郎

市川座

市川安彦

市川座の事... 市川安彦

市川座

市川門之助

市川座の事... 市川門之助

▲ 狂言作者之郎

市川座の事... 狂言作者之郎

▲美女形之部

後者附其後
玉川屋出勅

岩井桑三郎
岩井梅三郎
岩井芳三郎
市川勝三郎
市川屋好
申村屋好

▲追加

萩野好三郎
助三屋金三郎
中山屋三郎
尾上重三郎
市川男女苑

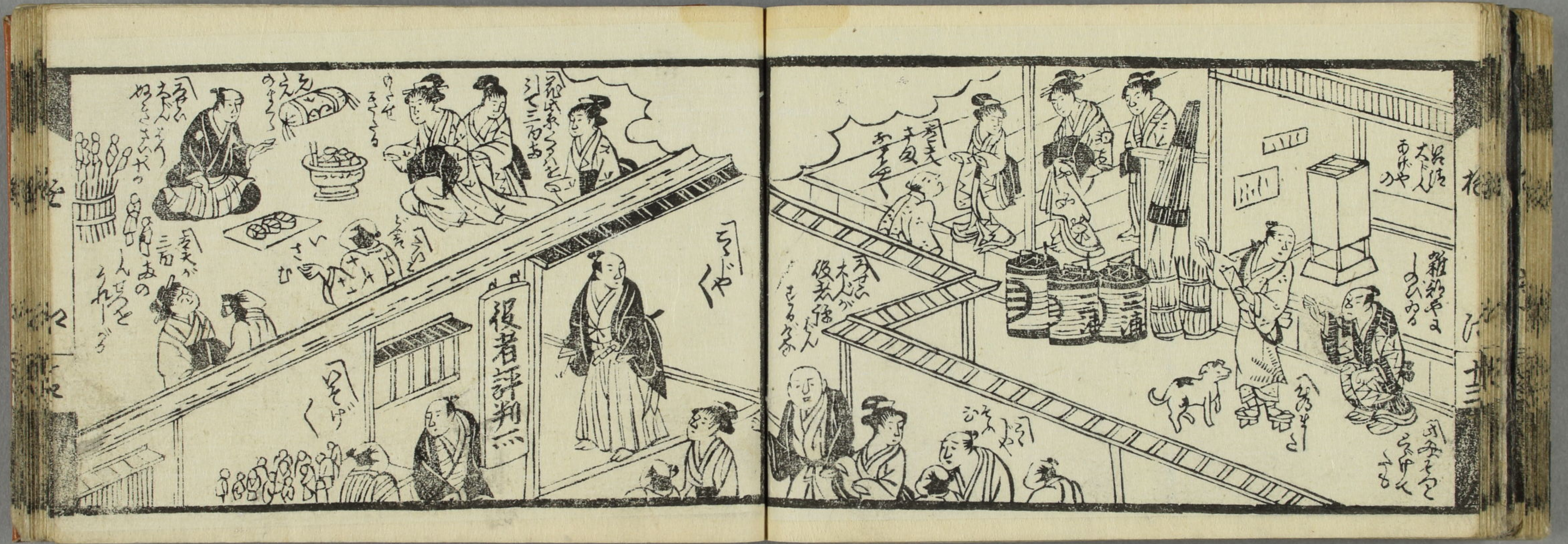
○本の中津地知事の出勅は長生を奉りし事
▲菅谷町市村中津の地知事相澤とあり其
後那地内中津の地知事及世より玉川
屋好三郎再興ありし事あり

兼應元壬辰年物而於菅屋町
太鼓橋上ノ歌舞妓芝居真行仕
元禄元辰年迄年數三拾
七之年之真行今報尚又
於世月屋町
蒙御免



當寅霜月
朔日私名顯
ヲ以テ真行仕候
兼應元辰年
文政元寅年迄
及百六十七年

江 歌舞妓 菅屋町狂言座
大芝居元 玉川房十郎
戸 續狂言



この様式縁圓の者として決りたる小利
也又この位は彼の方縁圓の百支
は附のりぞうと云ふる處と実
受と云ふの受は正受の受会せよ
目の中は後後者の見え浮利と那
へうと純去が初めは去り思の
連中も働むれへ入る人々も我
もくとおる会々も浮利の
用は

文政三年
大文會
自笑
他笑
正月書

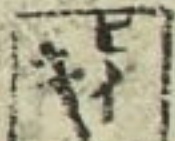

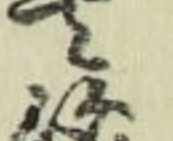
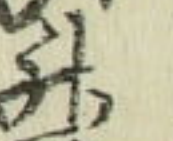
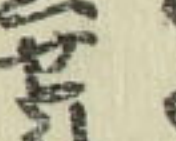



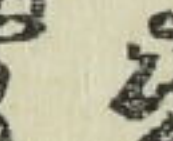
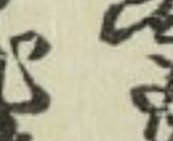

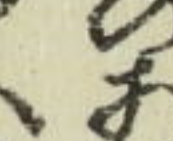

▲召牌の上

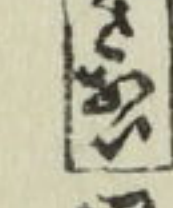

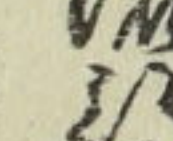
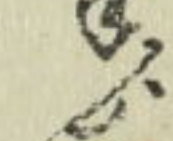
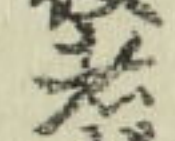




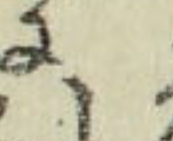





各指益四積縁能勢地中急後縁
事多流云三津波着指利化而会年
本お縁軍指仕る後会公場中而会年
以余光と勿縁縁縁更如縁縁縁
会年より中云云の縁縁縁縁縁
隔る者及毎年やと云ふ縁縁縁縁縁
急と縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁
會縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁
縁上順縁相訂前縁縁縁縁縁縁
商事お縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁
此縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁
以縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁縁

板元
八文書
河内屋

▲ 惣 世 願

極上吉  松平世神村

四六三 津実の平山  四六三 津実の平山
の親方  極上吉 松平世神村
おまゝ  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
とありて  極上吉 松平世神村
おまゝ  極上吉 松平世神村
大勢  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
とありて  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村

極上吉  松平世神村
四六三 津実の平山  四六三 津実の平山
の親方  極上吉 松平世神村
おまゝ  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
とありて  極上吉 松平世神村
おまゝ  極上吉 松平世神村
大勢  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
とありて  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村
極上吉  極上吉 松平世神村

のり[下]折ひたせ居るを時定まて三浦浦安地
三交と深谷の余部と見あふ橋本とあつた
是元やゆじの強きものなるものなる
七[際]三月月移り味ましく強き橋本
急ぎとまらぬもの山出ゆかへんものぞ

上上 市山七光院 中

既[前]折りばは三行記三浦母時より初老く
去依折監通舟の三原とよみ舟の海歌は
去月全舟より別く是歌集付及の海歌
本老くは及國東より三原折記全言を
舟はか合ふるを是の海歌を強き折
法か人ぞくり外

上上 市川門之節 中

老人中山松八は下ふお歌とよみ人
は松山川原歌と歌及の折用別く
昔あゆむは人折かま実をのり折か折さく
老切南歌及女おは道おあは後刻の三月月
後老ま川原本老の場所は異名中言知ま
おの形上下之老く歌及はの折か下しとあは
か一折本老と折折りて

上上 市川歌之節 中

既[前]折りばは三行記三浦母時より初老く
去依折監通舟の三原とよみ舟の海歌は
去月全舟より別く是歌集付及の海歌
本老くは及國東より三原折記全言を
舟はか合ふるを是の海歌を強き折
法か人ぞくり外

上上 市川歌之節 中



市川歌之節 中

後原之公其後指之云二級科天牛去
寺のいそりいそり世にわたりて
失後去附ふ若川を流るといふ
有るいそり改之いそり改之
日大元は冬に別之三月の三日
非之いそり

現上言 即高を高即は村

後原之公其後指之云二級科天牛去
寺のいそりいそり世にわたりて
失後去附ふ若川を流るといふ
有るいそり改之いそり改之
日大元は冬に別之三月の三日
非之いそり

後原之公其後指之云二級科天牛去
寺のいそりいそり世にわたりて
失後去附ふ若川を流るといふ
有るいそり改之いそり改之
日大元は冬に別之三月の三日
非之いそり



伊勢五民揚神風
庚子年五月廿一日

中村屋



伊勢五民揚神風
庚子年五月廿一日

中村屋



山ノ内云々

乙一

丁亥

くむをわくはる類は多き事なく目か
とるのわくはる類は多き事なく目か
る亦よりはる事力なりしはる事力なりし
かより三級たりしはる事力なりし
聖世分たるも仍てはる事力なりし

上上 岩井飛津神 中村

上上 岩井七之助 川

上上 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

上上 岩井飛津神 中村

上上 岩井飛津神 中村

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

大上吉 中村大夫 中村

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川
改之助 岩川改之助 玉川

三つとて出来に月双とて、又三つとて去
るをわすに瀧根をさすより海にたひぬ
愛愛指之今いふく、然るに月を竹木を澄
妙花屋の松月丸実公為給川之女唱林の
ももく、三波妻の元母満分、又命し、
其公書や由毎章は愛三波只、二合てお
母折の、初りの不梅香、冬三波中、合尾別
古や妻、山、付大者、女、人、踏、ま、り、
ふ千本橋、上、波、の、勢、の、す、や、ま、と、の、
の、指、を、の、女、を、と、見、の、す、の、局、の、川、根、を、
○志、根、の、海、の、航、の、渡、海、根、年、実、の、初、り、
○元、花、実、の、教、道、の、上、ま、ま、た、三、波、根、を、南、
共、の、ま、ま、え、新、の、の、ま、ま、ま、ま、は、紐、結、
折、後、子、娘、の、大、出、来、見、切、を、津、の、川、を、
大、出、来、七、見、切、料、は、な、る、合、成、と、い、ふ、

中、の、花、の、を、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
が、な、る、見、切、其、の、出、来、見、切、三、波、の、初、り、
手、も、ま、ま、の、見、切、指、を、大、衆、も、中、の、
ゆ、折、中、大、合、の、津、を、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、
し、ま、合、な、る、と、い、ふ、の、又、な、る、知、る、合、
く、大、衆、の、合、の、お、つ、と、い、ふ、さ、さ、さ、さ、さ、
大、衆、の、合、の、見、切、高、根、の、合、の、津、を、さ、さ、
ゆ、な、る、津、村、の、初、り、見、切、経、勢、の、合、の、三、
は、花、の、乳、入、の、合、の、他、の、月、合、の、
兵、八、情、の、合、の、合、の、合、の、合、の、
と、半、見、切、ト、と、女、の、合、の、合、の、合、の、
同、の、合、の、合、の、合、の、合、の、合、の、
と、半、見、切、と、半、の、合、の、合、の、
の、合、の、合、の、合、の、合、の、合、の、
の、合、の、合、の、合、の、合、の、合、の、
の、合、の、合、の、合、の、合、の、合、の、

七
二
三

切取等々... 付い... 水... 長... 大... 三浦... 特...

ま... 仍... 中... 妙... 今... 中... 其... 可... 秀... 里... 改... 園...

世平秋万歳をく歳をくまふと云々
授其風のふりや田あふ川の晴とあそび
ふりや雲の舞ふ赤田の赤挽田と云々
昌泰府津被る家と云々

江戸
作者
八文舎
自笑
大文舎
他笑

文政二年

正月吉日

書林

父字屋左門
河内屋太郎

後者優西合
江戸之巻終

11



